

## 令和4年度えりも地域ゼニガタアザラシ保護管理協議会 議事要旨

日時：令和5年3月9日（木）15：00～16：30

会場：えりも町福祉センター 大会議室（オンライン併用開催）

### 議事：令和5年度(2023年度)環境省えりも地域ゼニガタアザラシ管理事業実施計画(案)

事務局より資料 1-1「令和4年度事業報告と令和5年度事業実施計画について」、小林委員より資料 1-2「2022年度環境省ゼニガタアザラシモニタリング調査報告」について説明・報告した。

#### 【主な質問・意見等】

- ・ 個体数管理のためには生息頭数を何頭残せばいいと考えているか。（漁業関係者）  
→2016年3月時点と比較して生息頭数を8割まで減らす計画を進めている。当時の生息頭数（当歳を除く）を945頭と推定しており、現時点では778頭（82.2%）まで減少しているため、もう少しで達成される。（事務局）
- ・ 計画の頭数に達成したら、間引き回収はしないのか。（漁業関係者）  
→第2期管理計画の期間中は8割まで減らす計画であるが、必ずしも8割で止めるわけではない。漁業被害状況や生息頭数等の様子を見ながら、第3期計画を策定する際に再度議論させて頂きたい。（事務局）
- ・ 赤潮の影響でタコ等のゼニガタアザラシの餌が少なくなっていると考えられる。そのような状況でゼニガタアザラシが生き延びられるのか、生息地を変えるといった影響があるか伺いたい。（漁業関係者）  
→ゼニガタアザラシは広食性であり、餌を変えている可能性がある。発信機による行動調査からは、赤潮前後でアザラシの行動に大きな変化はみられなかった。（委員）  
→漁獲対象となるミズダコの寿命が4歳であるため、赤潮の影響が出ているとすると1、2年はタコも出てこないと思う。（委員）
- ・ 今年度は混獲頭数が多かったが、令和5年度の捕獲頭数目安に加味しないのか。（委員）  
→将来的には捕獲と混獲の合計頭数を考慮して、計画を立てる必要があると考えている。（事務局）
- ・ 数年前から防除格子網を設置した後に定置網を破って出入りする被害が増えている。（漁業関係者）  
→ゼニガタアザラシも適応してくるので、新しい被害についても記録し、対策を考えていかなければならない。（委員）
- ・ サケの食べられ方が昔と違い、今は餌不足なのかほとんどがバラバラな状態にされて食べられていることが気になる。（漁業関係者）  
→大型個体はサケをほぼ丸のみするため、小さい個体などサケを食べる訓練がされていない個体がやっていると思う。また、防除格子網を設置するようになり垂成獣も学習する機会が減っている可能性がある。ゼニガタアザラシの食べ方も変わってきていると思うので、一つの推移として被害の形状についても記録しておくとういと思う。（委員）
- ・ 襟裳地域が日高山脈襟裳国定公園から国立公園化された際には、ゼニガタアザラシの捕獲に影響はあるか。（漁業関係者）  
→国定公園が国立公園になっても何かが変わるわけではない。引き続き、こういった場で議論して計画を作り進めていきたい。（事務局）

本協議会を以て、令和5年度(2023年度)事業実施計画及び中間評価は承認された。

以上